第２号様式（第１２条関係）

令和元年度第２回大和市街づくり推進会議　会議要旨

１　日時　　令和元年８月６日（火）　１０時００分から１１時５３分

２　場所　　大和市役所本庁舎５階　委員会室

３　出席者　　９名

４　傍聴人数　０名

５　報告

都市計画マスタープランの改定について

６　議題

市制６０周年記念事業「大和市街づくり賞のあゆみ」について

７　その他

会議資料

① 次第
② 資料１－１　都市計画マスタープラン　改定の流れ
③ 資料１－２　都市計画マスタープラン改定のフレーム【案(その２)】
④ 資料１－３　第２章　全体構想
⑤ 資料１－４　将来都市構造図
⑥ 資料１－５　第２章　全体構想
⑦ 参考資料１～４　都市計画マスタープラン改定の前提（ホチキス止め）～
⑧ 資料２－１　市制６０周年記念事業　大和市街づくり賞のあゆみ　全体構想（案）
⑨ 街づくり賞事例マップ　全体図
⑩ 街づくり賞事例マップ　つきみ野地域

■令和元年度　第２回　大和市街づくり推進会議　会議録■

［会議名称］　令和元年度 第２回 大和市街づくり推進会議
［開催日時］　令和元年８月６日（火）１０時００分から１１時５３分
［開催場所］　大和市役所本庁舎５階　委員会室
［出席委員］　９名（欠席：２名）
［出　　席］：杉崎　和久／河村　奨／菅　孝能／江村　郁子／蓮沼　聡紀／星野　澄佳／山田　俊明／須賀　良二／宇津木　朋子
［欠　　席］：黒石　いずみ／松本　久美
［事 務 局］　１３名（街づくり総務課長、街づくり調査係４名、街づくり推進課長、街づくり推進係３名、大和駅周辺市街地整備支援係１名、街づくり総務課 事業委託業者３名）
［担 当 課］　街づくり計画部 街づくり推進課　　tel.０４６－２６０－５４８３
［傍 聴 者］　０名
［公開の状況］　公開

Ⅰ．会議次第

１．開会
２．報告
　都市計画マスタープランの改定について
３．議題
　市制６０周年記念事業「大和市街づくり賞のあゆみ」について
４．その他
５．閉会

Ⅱ．内容

１．開会

２．報告

　都市計画マスタープランの改定について

　質疑応答（○‥委員　▼‥市）

（１）街づくり総務課より現状の報告を行い、意見を聴取。

○資料１のとおり、本日は８月６日であるが、既に前回の４月１２日の推進会議で一度報告いただいている。都市計画マスタープランの改定は、基本的には、この推進会議ではなく、都市計画審議会が審議の場となる。大和市の場合、この「街づくり推進会議」というものがあるので、この場も、ただの報告にとどまらず一つの意見聴取の機会としたいということである。
次回の１１月に、ある程度整理された素案前のものが出され、２月にはまとまった報告となる。

この時点で、何か大きく欠けている視点等があれば伺いたい。
まずは今の報告を受け、この場は市民参加の街づくりが一つのキーワードとなっているので、まずは資料１－１の進め方について質問・意見・提案があれば伺いたい。その後、内容について意見を伺いたい。

○市民討議会では５４名の意見を聴き、これからも座談会は継続していく予定とのことだが、それぞれの場でいただいた意見は、このスケジュールで活かせる場はあるのか。１１月に次回の都市計画審議会と推進会議が計画されているとのことだが、この位の日程で大丈夫なのか。

▼資料１－１で「庁内調整等」の中ほどにある「マスタープランの素案の整理」を行っている。ここに反映していくため８月４日に市民討議会を、７月中旬から８月下旬にかけて意見を聴く会を行っていく。市民の意見を素案の整理に反映させていきたいと考えている。

○市民意見は、推進会議でいただいた意見と同じように扱っていくということである。大和市は、市民討議会の仕組みの中で様々な計画を作成していくわけだが、市民に対しどう説明されどんな意見が出されたのか。
市民討議会の担当課が違うとも聞いており、関係課がきちんと連携し機能しているのか非常に気になるが、市として事務局はどのような態勢で臨まれたのかを伺いたい。

▼市民討議会では、本日の資料のような「改定版のマスタープラン」の考え方を示すのではなく、その前段階で、もう少し広く現状の都市づくりに市民はどんなことを課題に思い、魅力に感じているのか、また、今後の都市づくりに何が必要なのかということを幅広く意見として出していただき、市民のニーズを把握したうえで「マスタープランの素案の整理」の要素として採り入れていくという考えの下で臨んでいる。
改定版のマスタープランをお示しして意見をいただくのではなく、現行のマスタープランのもとで、都市づくりに対しどのようなことを感じているのかを伺っている。

○現在の課題は、前回４月１２日の会議資料「取組結果報告書」で示されていたにもかかわらず、８月の市民討議会で繰り返し話されるのは、スケジュール的に矛盾しているのではないか。
取り組みの課題が出て、それを整理する段階で、市民討議会を開く流れがよかったのではないか。
参加された市民がどの程度満足されたか疑問である。

○これは、大和市が市民討議会を中心に市民参加をする際の課題だと思う。都市計画審議会や街づくり推進会議とは目的が違うのでまっさらな状態で自由に議論していただくということなのだと思うが、本来は、論点をここまで整理しているのであれば、ある一定の問いを立てて、その問いに対して市民がどう思っているのか意見を伺う方が、より効果的なのではないか。またまっさらな状態から話を聞き、そこで出た課題をどう反映させていくのか、市民討議会実施の仕方に問題があるのではないかと思う。

▼市民討議会は様々な事業のテーマで実施されている。これは、いわゆるサイレントマジョリティーからの意見を含めた幅広く多種多様な市民意見に行政は耳を傾けるべきであるとの市長の意向により始まったものである。
こういった機会を活用し、都市マスの改定に生かしていけるような意見や課題を把握していくために実施したものである。
確かに早い時期に市民討議会が開催されればよかったかもしれない。

しかし、市民討議会は総合政策課が担当しており、本来秋頃に実施する予定のものを前倒しして８月に実施した。

行政が整理した課題に加えて、市民討議会等を通して、素案に反映できるような市民の意見を吸い上げていきたいと考えている。

○趣旨は十分に理解できる。街づくりに関心のある方の意見は推進会議で聴取し、そうではないがまちに関心のある人々を後押しし意見を伺うための手段として市民討議会があるということである。

ここで聞きたいのはそうではなくて、スケジュールとしてもっと早く実施すべきではないかということである。あるいは、ここまで整理してあるならば、もう少し市民討議会の時期を遅くして整理したものに対し意見してもらうという進め方も、あるのではないかという意見である。

本来は、両者を連動させていくべきだと思う。

○８月４日の市民討議会等の内容を持ってきていただくことはできないのか。

▼総合政策課で業者を入れて取りまとめを行っているが、現在進行中のため今の段階ではお出しできかねる。

○現在終わっている意見を聞く会のものだけでもほしいのだが。

▼意見を聞く会は現在継続中であり、７月・８月で約３０団体に対して実施するもので、最終的に取りまとめが終わった時点で提示したい。

○雰囲気がわからないので、取りまとめ前のデータでもよいのでもらえないか。

○討議会がどういったものか、どの世代の人がどのくらい来ているのか写真を見せていただければ良かった。

▼よろしければ、当日の写真はお出しできる。

○参加者は無作為抽出したということであるが、討議の手法を説明していただきたい。

▼１日かけて大和市の良いところと課題を出し、２０年後どういう「まち」にしていきたいか話し合いをした。

○ここで紹介していただきたいのは、市民討議会の参加者層等である。

▼無作為抽出で３５００名位を抽出したが、このように平均的に抽出すると、どうしても南に住む人の参加が少なくなる。

▼地域の参加層の割合は、北部・中部が各３グループ、南部が２グループと南部が少なくなっているが、年齢層は、高校生から４０歳代位の方を含め７０歳代位までの参加があり全体的に幅広くご協力いただいた。

○通常の公募型のワークショップでは世代や関心が偏りがちだが、市民討議会はそのような偏りを解決するための手法である。今回、３５００名のうち幅広い年齢層の４４名が参加し、これまでの課題を改善するための手法として市民討議会が行われたことを前提として、ここから意見を伺いたいと思う。

▼市としては、北・中・南の３つのまちからバランスよく参加していただけるよう抽出したが、このような抽出結果となった。

年齢的にはかなりばらつきがあり、中でも良かったことは、高校生１０名の参加があったことである。このうち大和市在住は１０人中２～３人位で、あとは座間市や横浜市等、市外在住で学校が市内という方だった。発表も高校生が半分以上行い、非常に簡潔で分かりやすかった。

内容は、８班構成で行い、各班で課題を抽出し、最大４つの課題をあげていただき、参加者で順位付

けをするというもので、街づくり学校でもよくやる手法であり、１日かけるとかなり時間的にも余裕があった。

全班に委託業者がファシリテーターとなって入り、方向性を見出してもらいながら進めたため、議論も早くまとまり、我々としては非常に良い討議会だった。

当日の様子は画像や報告書がまとまり次第、皆様に公開したい。

○基本的には新しいチャレンジをしているということだが、スケジュールを調整するとさらに良いものになりそうである。

▼趣旨の説明が不十分だったが、市民討議会においては、事前に取り組み結果報告書で行政の出した課題について参加者に提供し認識していただいたうえで討議していただき、さらに細かい現状と課題を把握し、今後作成する地域カルテの参考にしていきたいという趣旨である。

○新しい取組みをしているということだが、もう少し遅い時期に開催すると効果的ではなかったか。

○平成２２年度のマスタープランは、平成９年に作成し１０年の節目で改定されており、平成９年に１０年後の大和市のあるべき姿を描いたということだが、今議論している改定マスタープランは、どのような位置づけで出されているのか。

○上位計画である総合計画の見直しを受けて行う見直しである。

▼平成９年からちょうど２０年経ち、既に平成２９年を過ぎてしまっているが、平成２２年は時点修正を行ったもので、改めて２０年後を掲げたわけではない。

社会情勢の変化等も取り入れながら、２０年の節目と今回の総合計画の改定とに合わせて、この都市計画マスタープランの改定を行っていくという意味合いである。

○内容に移りたいと思う。先ほどの説明では大幅な方針の変更はないとのことだが、新しい社会課題が出てきたりしているが、本当に変更なしで良いのか、意見を伺いたい。

資料１－５（vi）「地域が主役となるまち」①「地区課題の解決に向けたまちづくりの推進」がまさにこの推進会議で扱っている内容であり、課題があればここに組み込んでいく必要があると思う。ここから、ここだけに限らず議論していきたい。

○資料１－５（vi）「地域が主役となるまち」の前振り部分の「連坦」という言葉がある。辞書を調べても出てこないが、どういう意味なのかお教えいただきたい。

一方で、前振り５行目の「高齢社会の到来については、地域社会にとっての課題とされることが多いですが」は、ここだけ口語文になっており、「リタイア世代への推移」ということを言えばよいので、このような表現は不要ではないか。

○指摘された事項は修正した方が良いと思う。専門用語は極力使用せず市民がわかりやすいものにすべきである。使うのであれば、説明が必要だと思う。

▼文章の言い回し等はこれから修正していく。

「連坦」は連なっているという意味で、建築系の専門用語であり法律でも使われている。

○参考資料４（vi）「地区まちづくり」の専門用語も同じ言葉が並んでいるので、訂正していただきたい。

▼今はまだたたき台の段階なので、これから修正していく。

○二つほどある。

一つは、資料１－３の「広域連携軸の考え方」について、対応するのは資料１－５の「外出しやすい

まち」であるかと思うが、資料１－５の中に「広域連携軸の考え方」の話が記載されていない。市は都市計画マスタープランとして組み込む考えがあるのか。「広域連携軸の考え方」は今既にあるものでこれから整備するものではないのではないか。例えば、広域連携軸の話で、東名の表示が太くなっているが、市内に高速のインターチェンジなどを作る計画があれば別だが、何もないのに書く必要があるのか。

もう１点は、資料１－５（ｖ）「暮らし続けることのできるまち」の中に住宅の供給が記載されているが、これは、新しい住居の建築の話なのか、あるいは今盛んに議論されているリノベーションやリフォームのように、今の住まいを新しい形にしていくものなのか、行政として、都市計画マスタープランでどう誘導していくか、都市計画マスタープランにもっと書き込まれていてもいいのではないか。それと同時に、暮らし続けていくためには、徒歩圏の身近なところに居住サービス機能や居場所をつくる等、そういうものを考えていく必要があるのではないか。それを都市計画マスタープランとしてどう位置づけるのか。

そうするとおそらく、第一種低層住居専用地域の用途地域が圧倒的に多いので、都市計画上の規制とバッティングする点が出てくると思われる。その辺りの考え方をそろそろしっかり考える必要がある。

○一昨日の討議会の様子を見ると、市民の方が盛んに「空き家対策」と言っていたが、このような様子であると、都市計画マスタープランの中でも言及することになるのだと思う。

▼広域連携軸の話で、東名の表示が太くなっており、本市は通過しているだけではないかとの指摘があったが資料１－４を見ていただきたい。中央森林地区について、例えば東名に新しいスマートインターチェンジを設置する等、新たな事業を検討する際には、上位計画に示してあるのかということになるので、広域連携的なものについても示してある。

皆様のご意見をいただき精査していきたい。

資料１－５の「暮らし続けることのできるまち」の住宅供給については、新しいものを増やしていくのではなく、リノベーションやリフォームについても考えていきたい。大和市の場合、住宅マスタープランがないため住宅施策的な内容を都市計画マスタープランにある程度記載していきたい。指摘の内容も明らかにしていく必要があると考える。

一昨日の討議会で、市民の皆様はかなり「空き家問題」に関心が高く、利活用が必要であるという意見が多かったことは、我々も感じているところである。

今年度から空き家の担当部署も新設されたので、来年度空家等対策計画を策定していく予定である。そのための前段階として、今年度は実態調査を行っているところである。

○資料１－４「将来都市構造図」で、中央の森が宅地化されるということは、森がなくなるということか。

都市機能の充実について、つきみ野駅周辺と相模大塚駅周辺の将来都市のイメージはどのようなものか。

資料１－５（ｖ）「暮らし続けることのできるまち」①「ライフステージの変化や多様なライフスタイルに応える住宅の供給」とは、具体的にどのようなイメージを考えているのか。

同じく④の「用途が混在する市街地における適正な土地利用の誘導、地域住民によるルールづくりの支援」の中の「土地利用の誘導」とは、具体的に何箇所ありどのようにイメージしているのかお伺いしたい。

資料１－４と資料１－５の各項目の実際の土地のイメージが結びつかないため、どういうものを作るのか伺いたい。

資料１－４の地図上の土地利用を示す「住宅地」「商業地」「工業地」などの市街地のカラーリングと道路を示す矢印がつながっているとイメージしやすい。例えば水色で示されている「工業系の市街地」の道路や物流が水色の矢印でリンクしていれば頭に入りやすく、地図上の色遣いを関連付けるとわかりやすい。

▼緑地に関しては、資料１－４の将来都市構造図に６つの森を重ねると分かりづらいため、土地利用の方向性のみを示しており、緑の拠点は落とし込んでいない。また、「新たな市街地」とあるが、これは全てを宅地にするわけではなく、内山地区でいえば中央林間自然の森は都市軸上の森であるので、都市化と一体となって緑を活かしたまちづくりを進めていくイメージを持っていただきたい。街の中にある憩いの緑というイメージで、内山地区の中央林間自然の森については市がかなり購入しているので面的に担保できるが、中央森林地区については私有地が多いため緑を面的に残すのではなくルール化し市街化を進めるなかで緑を残していく。

内山地区と中央森林地区の方向性は多少変わっていくが、一概にすべて市街化・宅地化を進めていくわけではなく「新たな市街地」と位置づけ色分けをしている。

○資料１－３「土地利用の方向」と資料１－４「将来都市構造図」を重ねると整合していないように見えてしまう。「新たな市街地」ではなく、「新たな緑の市街地」がふさわしいのではないか。

▼「ライフステージの変化や多様なライフスタイルに応える住宅の供給」は、子育て世代や高齢世代では住み方が違い、各々住宅の必要性やライフスタイルの違いにより単身の方や賃貸にお住まいの方も多くいる中で、それぞれのニーズに合った住宅の供給を図っていくという趣旨である。

一方で、「居住支援体制の構築」については、大和市が充実していない部分であり、現在は神奈川県の協力のもと居住支援を行っており、今後重要なテーマとなってくる。

「土地利用の誘導」について、用途地域による誘導が挙げられるが、例えば大和駅や中央林間駅には人が集まる「シリウス」「ポラリス」などの施設を造り、環境を整えることで若年層の来場者を招致しているが、駅周辺の飲食店街を利用する人たちが使いやすく新しい商売や土地利用を始めるきっかけを作れるよう市は動いている。また、中央林間では鉄道事業者と連携し商業施設の入る駅ビルを建てることにより商売を始めるきっかけを作っている。

資料の内容が分かりにくいという話があったが、全体的なテーマを記載しており直接地域に結びつくことは書いていない。次回の会議までには、地域別構想で整理していく。

○前回の都市計画マスタープランの資料を見ると、市内を地域別に区切っているが、次回はこのレベルの精度の資料を示していただけるということである。

▼前回の都市計画マスタープランは、分野別の説明でも方針図を入れている。これは、例えば「住宅」等、法体系で切っているので、方針図も描きやすかった。改定にあたって、都市づくりのテーマ毎に方針図を作成するか、現在検討中である。

一方で、地域別方針だが、前回は５つの地区に区切っている。今回も５つの地域に区切っていく予定であり、５つの地域ごとの具体的な考え方を絵で示していくつもりである。

○トップダウンではなく、各地域の課題を積み上げていって、この資料が作られて然るべきと考えていた。

○次回はそのような内容の資料が出てくるということである。
▼完璧ではないが、その予定である。
○「県土連携軸」と「都市連携軸」の違いがよく分からないが、これも専門用語なのか。
▼市の都市計画マスタープランの上位に県の定めた都市マスタープランがある。
資料１－３の右下の図を見ていただきたい。県内にそれぞれの市があり拠点となる都市を結ぶ道路網や鉄道網として県土連携軸と都市連携軸が存在し、市をまたぎ県内の拠点となる都市を広域的に結ぶ軸というのが県土連携軸として定められている。大和市に関係するのが横浜厚木軸、厚木東京軸、相模原大和軸となる。
○２つの連携軸に大きな違いはないということか。
○神奈川県が定めているということでよいか。
▼図のオレンジ色は県の都市マスに位置付けられているものをそのまま引用している。
▼県土連携軸が一番大きな軸で、これを補完する軸として都市連携軸がある。両方とも県のマスタープランで定められており、それぞれの都市間をつなぐ道路や鉄道を軸としている。
○市では完結しない県で決めている広域の道路ということか。
▼県の都市マスタープランで示されている広域的な交通網である。
現在、中原街道について４車線化の工事を進めているが、今後、小田急江ノ島線との交差の問題が出てくる。立体交差の話を具体的に進めていくため、「広域的な」という表現も必要と考える。
○先ほどの将来の話ではなく、現在動いている事業中のものについての話ということである。
▼これから計画を作っていくものも含まれる。
○２０年後の未来の話ということだったが、その割には、内容が来年の話で近視眼的で未来感がない。
ある意味では地に足がついている話だが。説得力がなくどの辺に投資していくのかわからない。
例えば、２０年後の話にもかかわらず、次世代モビリティの話がなく、自転車にしか触れていない。
自転車についても、自転車交通の通行帯のことしか記載されておらず、海外では成功しないことは明らかで、２０年後の話としては非現実的である。１年先ではなく、２０年後を見据えた項目がほしい。
○具体例をお示しいただけるか。
○セグウェイとは言わないまでも例えばキックボード等、次世代モビリティに類する話を載せないと時代遅れの印象を与えるのではではないか。
もう１点、外国人の話が全くない。県外・他都市から入ってくる人の話もほとんどない。「開かれた市」にすべきではないか。
▼観光という意味合いか。
○観光でも居住でもよく、様々な問題が出てきた場合に「開かれた市」としてどのように対処していくのか。例えば鶴間の駅も、市外・県外・海外から転入してくる人に対して、市外から来る人の視点に立って、市のどこを見てほしいのか視点が明確化されていない。この点を認識すれば、この２０年で鶴間の駅前は変わると思う。
▼都市計画審議会でも話が出たが、やはり大和市の魅力は８つの駅である。交通の結節点という意味合いではやはり駅であり、駅の活用があまり記載されていないことが指摘されている。すぐにできることではないが、今のご意見は２０年後を見据えたときには必要なことであると認識している。
○大和の魅力は森である。一方で、駅前に案内が無く、もったいないなと思う。

○都市計画マスタープランについて、記述の際の留意点のようなものをお伺いしたい。例えば、なんとなく網羅的に記載するしかない状況だと思うが作成のポイントは何か。プライオリティの高いものがあるのだと思うが、行数を増やしたり、順番を変えたり、表現に色をつけるなどがあればお教えいただきたい。

▼例えば優先的に進めるものについての話ということで良いか。

○そうである。課題との結びつきが強いもの、優先順位の高いものは何か、何が課題になっているのか、資料を見ただけでは分かりづらかった。

▼課題があり、目標があり、実行していく形になる。プライオリティということであれば、資料１－２を見ていただくと、第４章「実現に向けて」という部分で、順位づけではないが、具体的に優先的なものを示すことを考えている。計画の段階で色付けは行わないが、こういったところで示している。

○市民討議会では市が捉えていた課題と市民の考え方に大きな「ズレ」はなかったのか。

▼極端な「ズレ」はないが、空き家の問題、緑、交通の他、具体的に今上がっている課題に関することが多数で、方向性は行政側とほぼ同じだった。

ただ、市民討議会のため、土地利用方針や都市計画マスタープラン関連に限った話ではなく、様々なソフト的な、行政にお願いするような内容も含まれていた。市として参考になるものが多かった。

○１点付け加えると、先ほど２０年後に関するご意見があったが、２０年間同じ都市計画マスタープランで行くわけではなく、会議等の場で進捗状況によりどう評価し変えていくのか、資料の前段部分でわずかに触れているだけであり、未来を予測しにくい社会の中で都市マスをどのように更新していくか議論していく必要がある。

３．議題

市制６０周年記念事業「大和市街づくり賞のあゆみ」について

質疑応答（○‥委員　▼‥市）

・事務局より説明

○予算の限られている中での対応のため、まずは皆さんに議題について項目の追加や感想を含め提案をお願いしたい。

○まず、資料はスマートフォンで見る前提で作成されたほうがよい。可愛らしい地図だが紙で印刷するのではなく、スマートフォンで閲覧するのに適した資料にすべきである。

そうだとすれば、表紙や裏表紙は不要になると思う。

また、市のホームページに掲載する場合の規制が沢山あるため、どのようなプログラムを使用できるのか、コストの節約になる外部サービスは利用可能なのか、現在市に調査していただいている。

○事務局は紙で印刷できるようなものをＰＤＦでアップロードするというイメージだったが、そもそも資料は紙で印刷しない前提で組み立てるという提案である。

○全く印刷しないのか。

▼印刷もできるようにはしたいとは考えているが、冊子にするという考えは持っていない。

○皆さんからは、どのような情報を組み込むべきか、意見をいただきたい。

○先ほどの話ではインターネットで見ることができるということだが、「つきみ野地区」を選択すると

地図が出てきて、「８番」という番号をクリックするとこの資料が見られるということか。
○そうである。トップページが全体図になり、そこから各地域、各事例へと進んでいく。
▼市のホームページでは制約が存在するため、もし使えるのであれば外部サービスを利用してはどうかという提案である。
○外部サービスは利用できないにしても、外部で作成したデータを、変換して市のサイトに載せることができる可能性があるのではないか。
○テクニカルな話になるが、市がサポーターと共同して、「サポーターのホームページ」を作成してはいかがか。市のホームページはリンクを貼るだけ等。
○市の予算があるならば、写真を撮ることに使ってほしいという提案はした。
○資料にある写真は、見づらく入ってこない。暗いもの・ボケているもの、余白の幅、フォント等が揃っていない。資料の中でなぜバラバラで統一性がないのか。
○市で「インスタグラム」を利用できればよいが。利用できるならばサイトを作成する必要がない。
▼現在確認中であるが、公式で使えるのはツイッターだけである。ほかに「インスタグラム」や「フェイスブック」など色々なＳＮＳツールがあるが、どのツールを利用するのが相応しいのか分析・検討し、庁内手続きを行い市のアカウントを作成する必要がある。
○キャンペーンサイトは作れるのか。
▼市として作成していいのか、担当部署への確認が必要となる。
○インスタグラムが利用できれば、カメラマンに撮影費用を支払うだけで済み、１事例１写真とし受賞コメントと何年度受賞のタグを入れるだけでよい。あいさつだけは１ページ使用するようにしてはいかがか。
○若干の予算はあると思うが、当初、記念品の予算にしていたものを撮影費用に回せないものか。
残る問題は運用のしやすさであり、ＳＮＳの運用基準でインスタグラムが利用できるのか市のルールの中でやれることを実施するしかないのではないか。
一度公開すれば、更新はしないものだと思う。
○期間を決めて、内容が確定した１１月・１２月に１日１投稿ずつあげて、時間をかけて公開していくと良いと思うが。
○トップページは動きのないものにして、ハッシュタグだけを指定しておく等、いろいろやり方はあると思う。
○トップページだけは市のホームページにするなど。
○いずれにしても、街づくり賞を受賞したくなるような写真を撮ってはどうか。
○データは１年や２年で消えてしまうのか。
○委託する契約の仕方によるはずである。記念で行うので、期間が終了しても残したいという趣旨である。街づくりのページとしても残せる。
○今のような議論を上層部の方々が果たして理解できるのか、疑問である。「さあやろう」という上層部の方がいるのか。専門用語を理解できるのか。
○それもあって、セキュリティを含め外部委託サービスを利用するということだと思う。
○他との関係が出てくるのか。
○市の規約だけの問題である。他の省庁のサイトでは、例えば、かつてはそもそもスマートフォン対応

が不可能である等、普通のサイトではありえないような厳しい制約がある。そのため、外部サービスの方が安くて速い。

〇まだ、この提案については時間があるので、項目についての意見等をうかがいたい。街づくり賞は見栄えも重要であり写真は撮り直したほうがよい。

受賞当時の過去形の文章と現在とは変わっているはずである。

▼個人宅もあり、個人情報の関係で資料地図にどこまで表示できるのか難しい。

▼事例名には個人名がフルネームで入っていることから個人が特定されてしまうものがある。年月も経ちもう載せなくてよいという方や亡くなられている方もいるため事例の扱い方や載せ方も難しい。

〇意向確認の結果、拒否されたものについては載せられないと思う。

〇賞の受賞に関して、賞を取ったら何年間は取り扱うという決め事はあるのか。

▼取り決めはない。

〇賞を出すからには啓発したいことから、知らずに賞状を隠されても困る。賞をもらったということを広く知ってもらうために行っている。

今後、そのような条件についても検討する必要があるのではないか。

また、既存の地図を拡大すると、場所が特定されてしまうので、それを利用するのではなく、ベースとなるラフな地図を作っておいたほうがよいのではないか。その辺りは技術的な話だが。

〇最初の大雑把な全体図は出してもよいが、その先はある程度、調整が必要である。

〇公開スケジュールはどうなっているのか。

▼今年の１２月いっぱいが６０周年イヤーであるため、年内に公開予定である。

〇大きい地図を出しておき、つきみ野地区をクリックするとつきみ野地区の〇〇のような地図が「ボン」と出れば個人の家は特定されない。その程度で納めておいたほうがよいのではないか。

個人の家の紹介ではなく、受賞した方の紹介なので問題ないのではないか。

〇「このお宅の庭素敵ね」というものもほしい場合もある。個人宅と事業者とで違いはある。

〇受賞者の情報量と写真を揃えた方がよいのではないか。

〇その点については、スマートフォン対応にすればレイアウト等が自ずと揃ってくる。

〇写真は、引いたところとズームしたところがほしい。例えば、花だけあっても何だか分からないので。

他に意見はないか。

それでは、あとは事務局に個別に相談していただいてもよいので、よろしくお願いしたい。

７．その他

・次回の推進会議の開催予定時期について説明。

・審議内容は、「今年度街づくり啓発事業について」「都市計画マスタープランの改定について」を予定。

・後日メールにてスケジュール調整用サイトを利用して確認させていただくことをお願いした。

８．閉会

以上